

財団法人大阪府文化財センターは、平成 20 年 9 月から池島・福万寺遺跡の発掘調査（その 10）をおこなっています。この遺跡は縄文時代晩期から近世にかけての複合遺跡です。

今回の調査で、弥生時代前期の遺構から人形土製品・石棒などの祭祀遺物や、土錘 [どすい]・石錘 [せきすい]などの生業に関わる遺物が出土しました。

この成果を広く公開するために、大阪府立弥生文化博物館において人形土製品と石棒を展示します。

今回出土した人形土製品は、弥生時代前期（今から 2300 年前）の祭祀を考えるうえで貴重な資料です。弥生時代の水稻農耕（壺・石包丁・杵・平鍬）・漁撈（石錘・土錘）に関係する遺物とともに、縄文時代からの祭祀遺物（石棒）が同時に出土しており、生業に関しては新しい技術（水稻農耕）を受け入れているものの、精神的な依り代としては縄文時代のものを受け継いでいる状況が見られます。

